生きる権利の最後のとりで

『土佐希望の家』が十周年を迎える

昭和四十五年六月十二日、多くの困難や障害をのりこえて、現在の小笠に建設、開園された心身障害児施設『土佐・希望の家』が十周年を迎え、六月八日、内外の関係者約百七十名によって盛大に記念式典が行われました。

午後一時からの式典は、まず、この十年間に施設で不幸にして死亡された十四名の園児と、顧問だった故坂本昭前高知市長とに黙とうを捧げ、そのめい福を祈りました。紫藤理事長は『開園の時も雨だった。この十年間、職員の和と園をとりまくみなさんのおかげで、理想とはいかないまでもここまでやってきた。今政治は大きく動いているが、政治には関係なく、この種の施設は絶対に必要である。今後もひきつづき、園内の和を一層強くしていく所存なので、園外のみなさんのご指導、ご支援を心からお願いします。』とあいさつ。

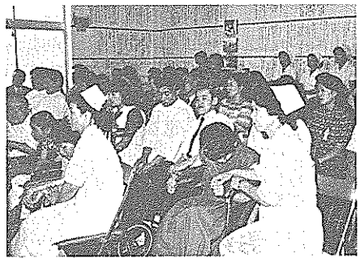
中内知事や小笠原市長らから『十年をふり返り、記念誌を拝見すると関係者のみなさんのご苦労が身にしみてよくわかる。行政の力だけでは愛情ある運営はできない。人間の生きる権利を守るのは法律ではなく、我々人間の心である。重症心身障害児（者）を守るこの施設は、人間の生きる権利を守る最後のとりでだ。これからが長いので、ここで息をぬかないように。子供たちは職員のみなさんを頼っています。見すてることのないよう一層の努力をお願いします。愛情のとりでを確立してください。』と祝福、激励がありました。

続いて、施設実現に献身的な貢献をされた山崎敏氏や永年勤続職員などが表彰されました。

出席された多くの父兄のみなさんのなかには、過去の苦労を想い出してか、涙をぬぐう姿が見られました。食べることができない孫のために、口うつしで食事をさせてやるおばあさんの話などを聞くと、この不幸な子供たちのため我々は何ができるのか？何をしてやらなければならないのか？――深く考えさせられた十周年記念式典でした。

なお、希望の家では、開園十周年を記念して〝どろんこ十年のあゆみ〟を発行し、反省と発展の資料としています。

土佐希望の家病棟落成（昭・45・6）



共同保育所『コスモス』運営資金づくりで〝バザー〟

公立乳児保育所設立で署名運動も

日吉神社北側（東崎西部）にある共同保育所『コスモス』が六月八日、保育所運営の資金づくりのための〝第二回バザー〟を大地の中央公民館で開きました。

現在、市には十四の公立保育所がありますが、このなかで乳児（〇歳―二歳未満）を受け入れているのはわずか一園（一歳六カ月児から）。年々増加する働くお母さんたちにとって、公立の乳児保育所建設は切実な〝願い〟となっています。

共同保育所『コスモス』が誕生したのは、五十三年六月。乳児を抱える父母らが中心となって、建設への署名運動や市への働きかけをする一方、〝実現までは自分たちの手で〟と民家を借りてスタートしたものです。

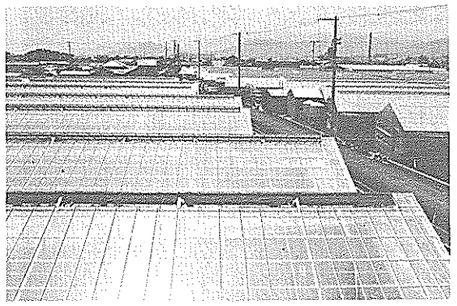
少なかった園児も年ごとに増え、現在では〇歳児十五名、一歳児十五名の大所帯となり、昨年四月には現在の場所へ移転。諸物価の高騰から苦しい〝台所〟ですが、保育料も据え置くなど、保母や園児の両親らが一体となってがんばっています。

八日のバザーには、園児や卒園児の両親、後援会の人たちが、衣類や趣芸品、贈答品など多数を出品。予定していた午前十時の〝開店〟が九時に早まり、午前中で売上げの目標額に達するなど、なかなかの盛況ぶり。また、会場を訪れた主婦が〝私も〟と家から花をもってきてくれるという、うれしい一幕もありました。

また、この日は公立乳児保育所設立請願の署名運動も行われ、『コスモス』の田村隆章代表は『午前中で売上げの目標額に達したことはもちろんですが、〝コスモス〟を多くの市民に知ってもらえた点でも成功だったと思います。集まった約千人の署名（当日は約三百人が署名）をもとに、後免保育所の新築移転後の跡地に公立乳児保育所を設立するよう、六月議会に請願します。』と話していました。

近代的な野菜ハウス団地完成（三畠）

第二次農業構造改善事業



経営規模の拡大をはかるとともに、ハウスの共同利用を通じて地域のモデル的な農業経営を目指そう――と五十三年度から長岡の三畠地区で工事が進められていた第二次農業構造改善事業の『野菜ハウス団地』がこのほど完成、六月十三日竣工式が現地で行われ、工事の無事完了を祝いました。

この野菜ハウス団地は、農事組合法人『三畠園芸団地（池知五男組合長＝組合員十三名）』が国の補助事業（1/2補助）で、五十三年度二万六千平方㍍＝一億五千七百万円、五十四年度一万四千七百平方㍍＝一億一千二百万円の工事を二年間で行っていたものです。

構造は、外周布基礎の鉄骨アルミハウス、間口九㍍（一部七・二㍍）で、押ボタン式自動天窓やビニール止めにアルミレールチャックが使用されるなどの省力化と、内部は二重カーテンを使用した経費節減をねらった近代的なもので、ハウス内の作業効率がすぐれているなど、県内で初めてのタイプです。

関係者ら多数が出席して現地で行われた式では、池知組合長の『私たちの生活をかけた営農施設がやっと完成。これからは、きびしい園芸情勢に挑戦していくのが私たちの生きがいです。』とのあいさつに、来賓から『高知県の生命産業である施設園芸を守ってください。』『これから問題が起らないとも限らないが、一致協力してがんばっていただき、みなさんがリーダー格になって南国市の先進的な農業を守ってほしい。』と励ましの言葉がありました。

完成した野菜ハウスは、台風常襲県を考慮に入れた、強風に耐える構造でもあり、前進的な栽培ができるとあって、ピーマン、ナスの主産地を目指してこれからの躍進が期待されています。

〝ミス南国〟に宮崎さん

市観光協会（沢村武一会長）が募集していた『第二回ミス南国』がこのほど決まり、六月十四日、巨峰園で表彰式が行われ、市民に紹介されました。

この『ミス南国』は、市で行う各種観光行事などのお手伝いをしていただいて、観光方面の発展に一役買おうと募集していたもので、ミス南国に高知市のスポーツ店に勤務する宮崎鈴子さん(22)＝立田、準ミスに市内の病院に栄養士として勤務する田中美江さん(20)＝比江、が選ばれました。

親子クイズ 105

ご家庭で話し合って答えてください。答えはこの広報に出ています。

■**もんだい**・第20回〇〇〇〇の日程が、11月23日から11月30日までと決まりました。

■**しめきり**・七月十五日（火）

■**おくり先**・〒783　南国市大埔甲2301　南国市役所内広報委員会　親子クイズ係

■答えのハガキには**必ず、住所・氏名・年齢・職業**を書いてください。

■**賞品**・特賞千円＝三人、残念賞（記念品）＝五人

第105回正解者発表

（応募総数57通）

■**こたえ**・（六月八日でした

■**特賞**・千円＝三人

高田富枝さん（片山）

谷　清文さん（下野田）

山崎栄彦さん（後免町）

■**残念賞**・記念品＝五人

藤原健治（大埔）林栄枝（北小笠）箭井竜一（植野）本川菊吉（小蓮）西山智子（片山）

おめでとうございました。